**オロロジカルマシン No.8『オンリーウォッチ』**

デュシェンヌ型筋ジストロフィーと共に生きる子供たちへの支援を推進

世界で最も注目されている時計専門のチャリティイベントとして有名なオークション「オンリーウォッチ」は、隔年で実施されており、2017年はその開催年に当たる。今回のオンリーウォッチで4回目の参加となるMB&Fは、ブランドが誇るマシンのユニークピースを出品する。この作品の売却による収益は、主として男児に発症して進行性の筋肉変性が生じる遺伝性疾患、デュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療研究の支援に充てられる。

このユニークピースのベースとなっているのは、伝説的でエキサイティングなカンナム レースからデザインのヒントを得て、スポーツカーをイメージしたオロロジカルマシン No.8だ。 HM8のエンジンをカバーするサファイアクリスタルには、メタライジング処理とともに奇抜な線画のエングレービングが施されているが、これは15歳の少女、カサンドラ・ルジャンドルが描いた作品である。マドリッドに住む学生であるルジャンドルにとって最も重要な芸術表現の方法はバレエだが、自由な時間があるときには絵を描くこともあり、素晴らしい作品を生み出している。彼女とその家族は、MB&Fがオンリーウォッチ・オークションに出品する作品、HM8 オンリーウォッチがより力強いメッセージを発信できるよう、例外的に1回限りのコラボレーションを行うことに同意した。子供の頃には誰しも多くの夢やチャンスを思い描くものだが、それらをあきらめなければならない子供たちを支援する手段を別の子供が創り出す、というメッセージだ。

この絵の複雑でありながらシンプルでもあるスタイルは、時計製作におけるMB&Fの洗練された、それでいて直接的なアプローチと見事に調和している。子供が喜びそうなものを、連続的な輪郭線で表現した作品だ。ルジャンドルは、10代半ばにもかかわらず、幼い子供の視点を素晴らしいタッチで描き出している。それはまさしく、成長するにつれて失われていく無邪気で気まぐれな子供らしさが十分に残された視点である。この線画を近くでじっくり見ると、ロボットやジェット機、おもちゃの車、クラゲなどが描かれていることに気付くだろう。これらは、MB&Fの創業者、マキシミリアン・ブッサーの人生や作品のテーマが視覚的に表現された内容であり、あらゆる子供たちが共感を覚えるアイテムでもある。さらに、アイスクリームのコーンやフットボール、サングラス、ビデオゲームのコントローラーなど、純粋に子供が喜びそうなものも含まれている。

これらのアイテムは、個々人の、また全ての人々に共通する過去の日々のイメージであり、MB&Fの作品のデザインやメッセージとして取り入れられている。様々な要素をつないで一つにまとめたこのモチーフは、カサンドラ・ルジャンドルのアート作品が最初のスケッチからHM8 オンリーウォッチにおける最終的な形に完成されていく過程で生み出されたものだ。 彼女によると、この絵は元々、退屈な数学の授業中の暇つぶしに描き始めたという。多くの人にとって身に覚えのある、若い頃の経験というところだろう！しかしその後、両親の勧めで絵をFacebookにアップロードしたところ、ソーシャルメディアを介してマキシミリアン・ブッサーに見出されたのだった。

HM8 オンリーウォッチでは、ルジャンドルの線画を構成するアイテムの一つが、際立った存在感を発揮している。すなわち、レーシングカーからインスピレーションを得たロールバーの下、分表示ディスクのすぐ近くに象のイラストが見えるが、光学プリズムの間にも象の立体モチーフが配置されているのだ。小さなホワイトゴールド製の台に取り付けられたこのミニチュア彫刻フィギュアは、オリヴィエ・クーンが手作業で制作したもので、キップリングからディズニーまで幅広い児童文学に登場する堂々とした動物の姿を印象的に表現している。 デュシェンヌ型筋ジストロフィーや極めて深刻な健康状態に苦しむ子供たちにとって、絶滅の危機に瀕して不確かな将来に直面している動物としての象の姿は、特別な意味を持ち、自分たちとの結びつきを感じさせるのだ。この彫刻フィギュアは、鼻を引っ込めて耳を後ろに引いた、くつろいだ姿勢の象を模しており、ホワイトゴールド製で、制作に120時間を要した。最も細い部分が直径わずか0.2mmの牙、直径0.18mmの目といったディテールは、細心の注意を払って仕上げられている。

原型となったモデルではMB&Fのロゴの刻印入りプレートが2本のネジで固定されていたが、HM8 オンリーウォッチでは、その位置に、2本のネジを目に見立てて笑顔（スマイルマーク）を表したホワイトゴールド製ディスクを配している。これは、ルジャンドルがオロロジカルマシン No.8 オンリーウォッチにおいて発揮している子供らしい視点を象徴するモチーフだ。MB&Fの原動力となっている創造性に共感する人々は皆、このような視点を持っている。

**アーティストについて**

カサンドラ・ルジャンドルはフランス人とスイス人の両親のもとに生まれた15歳の学生で、マドリッド（スペイン）に住んでいる。 5歳からクラシックバレエを習う。現在は、モーリス・ベジャールが20世紀における最も優れたバレエダンサーの1人と評した人物によって設立されたヴィクトール・ウラーテ・バレエ学校に在籍。

最終的な目標はプロのバレエダンサーになることだが、アート活動も生活の重要な一部となっている。 彼女の作品の大部分は線画で、黒のフェルトペンを用いて全てフリーハンドで描かれている。

ルジャンドルは、絵とバレエの他にも、幅広いジャンルの映画が好きで、特にシナリオのセリフに興味を持っている。

**オロロジカルマシン No.8について**

「カンナム」にインスパイアされたエキサイティングなタイムピースとして2016年に発表されたオロロジカルマシン No.8は、最新デザインに進化したヘッドアップ時刻表示を採用。MB&Fは、5年前にHM5「オン・ザ・ロード・アゲイン」においてヘッドアップ表示を初めて取り入れ、次いで2015年発表のHMXでは、この表示に改良を加えている。

HM8のエンジンは、ジラール・ペルゴのキャリバーをベースに自社開発したコンパクトなムーブメントで、ジャンピングアワーディスクとランニングミニッツディスクを搭載している。これらのディスクの上方の特定の部位に光学プリズムが取り付けられており、このプリズムの屈折および拡大効果によって、時刻を示す数字が垂直面に表示され、それを読み取る仕組みになっている。オロロジカルマシン No.8では、外装の余分な部分が徹底的に削ぎ落とされた。これは、カンナム レーシングカーのシンプルな外観をイメージしているだけではなく、できるだけ多くの光がプリズムに入射するようにして、表示の鮮明度を最大限に高めるためでもあるのだ。

原型モデルのその他の特徴として、スレンダーなチタン製ロールバーが挙げられる。これはリューズの側面から、時刻表示シリンダーに向かって弧を描きながら延びている。レーシングカーのファンであれば、HM8の裏側に「オイルパン」が搭載されていることにすぐ気付くだろう。このオイルパンの姿も、サファイアクリスタルを通して眺めることができる。

**オンリーウォッチ**

2005年に創設され、モナコ筋ジストロフィー協会が主催し、モナコ公国アルベール2世大公殿下の後援のもとに開催される「オンリーウォッチ」は、隔年実施の時計専門オークションで、ユニークピースのみが出品される。落札で得られた収益は、神経筋疾患、特にデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療・研究のために寄付される。このオークションは、これまでに6回開催され、合計2,500万ユーロを超える収益をあげている。

2017年のオンリーウォッチはジュネーブで開催される予定で、このオークションが同市で実施されるのは2回目。オークションに出品される時計は、モナコ・ヨットショー（2017年9月27日～30日）で披露された後、アジア、中東、米国、ヨーロッパの順に世界各地で巡回展示される。

オンリーウォッチ 2017に出品される時計のテーマとして打ち出されているのは、ブランドとスポーツアンバサダーやアーティストといった外部の人物とのコラボレーションだ。これは、医学研究の進歩において、様々な分野にまたがる有益な交流やパートナーシップを推進することがいかに重要であるかを強調している。

オンリーウォッチ 2017は、11月11日（土）に開催が予定されている。この世界初の時計専門チャリティオークションは、今回初めて、豊かな経験と専門知識を誇るオークションハウス、クリスティーズの協力を得て実施される。

**オロロジカルマシン No.8の詳細**

**インスピレーション**

MB&F創始者マキシミリアン・ブッサーは若い頃、自動車デザイナーになりたがっていたが、結局それは選択せず、代わりに時計のデザインをすることになった。それともマキシミリアン・ブッサーはそうすることを夢見ていたのだろうか。HM8を車のサイズにするのに、大きな寸法拡大は不要だ。1,000馬力以上のモーターをフードの下に入れ、シャシーにレース用トレッドレスタイヤを装着するだけだ。ビジュアル的にはポリッシュしたロールバーがHM8をカンナムのスーパーカーを彷彿とさせるが、HM8に真のインスピレーションを与えたのは、制限ルールの外に身を置くカンナムの反骨精神である。

**ケース、ロールバー、クリスタル**

HM8のケースの最上部は1枚のサファイアクリスタルで、縁にブルーの色調を出すために部分的にサファイアを金属で被覆している。ロールバーはグレード5チタン製で、軽量でありながら高い強度を持っており、まさに求める品質を備えている。チタンは可鍛性が低く、要求する長さのカーブに曲げることは容易でない。したがって各ロールバーは、チタンTi-6Al-4V製の堅固なブロックから圧延して製造されている。この種のチタンは、市販の純粋なチタンとして販売されているものに比べて顕著に強く、軽量性、強度、耐腐食性の点で卓越した性質を備えている。

**エンジン、表示、反射プリズム**

HM8は、ジラール・ペルゴベースムーブメントに、自社開発の双方向ジャンピングアワーとトレーリングミニッツ表示モジュールを搭載。ムーブメントは、自動巻きローターをトップに配するために反転されており、プリズム表示モジュールを動かすために改造されている。パワーリザーブは42時間である。

HM8の双方向ジャンピングアワーとトレーリングミニッツ表示は、ムーブメントの上で水平に回転しているオーバーラップディスクによって表示されている。さらに時刻はケース前部のダッシュボードに縦に表示される。MB&Fは、これを達成するために、高精密オプティカルガラスのサプライヤーと共同でディスクの光を90°の角度で反射させる反射サファイアクリスタルプリズムを開発。プリズムもまた、表示を20%拡大するため、読みやすさ抜群だ。

サファイアクリスタルガラスは、一般のガラスに比べ光学的な精密度を出す作業が難しく、わずかなひずみもなくクリスタルが光を反射して拡大効果を出すには製作にかなりの開発力と入念な配慮を要する。前面縦型表示により、HM8カンナムは、ハンドルから手を離すことなく時間を読み取ることができる卓越したドライバーズウォッチとなっている。

**カンナム**

1960年代、フォーミュラ1は主にヨーロッパが中心で規制が多く、マシンの変更は車のスピードを落とすための厳しい規則内でしか許可されていなかった。北アメリカのレーサーたちは、規制を無視した自分たちのレーシングシリーズ、カナディアン＝アメリカン・チャレンジ・カップ（後にカンナムの名で知られるようになった）を発足させる決意をした。このシリーズは、ローラやマクラーレンなど、カーレースでは有名なチームを多数送り出すこととなった。カンナムは速く走る、という以外、基本的に何のルールもないのだ！

カナディアン＝アメリカン・チャレンジ・カップはグループ7のSCCAとCASCのスポーツカーによるレーシングシリーズで、1966年から1987年にかけて、カナダで毎シーズン2回、アメリカでは毎シーズン4回行われた。等級的には事実上、エンジンの大きさ、馬力、空気力学の点ではどんなものでも良く、カンナムは技術イノベーションにとって最適な環境であった。最盛期にはカンナムのマシンは世界で最も進んだレーシングテクノロジーを有し、1000馬力でF1のマシンより数周先行することができた。万一、そのパワーゆえに車体が突然横転したような場合でも、クローム製のロールバーがドライバーの安全を確保していたのだ。

**HM8 オンリーウォッチ：技術仕様**

**特徴：**

このホワイトゴールドおよびチタン製のHM8ユニークピースは、15歳のカサンドラ・ルジャンドルが描いた線画がエングレービングされているサファイアクリスタルおよび、時間表示と分表示の間に位置する象のホワイトゴールド製ミニチュア彫刻フィギュアを備えている。

**エンジン**：

ジラール･ペルゴのキャリバーをベースにMB&Fが設計・開発した3Dエンジン

パープルPVD加工を施した22Kゴールド製、バトル・アックス自動巻きローター

パワーリザーブ： 42時間

振動数： 28,800 振動 / 4Hz

部品数： 251

石数： 30

**機能 / 表示**

反射機能および拡大機能を備えた2つの光学プリズムに表示される双方向ジャンピングアワーおよびトレーリングミニッツ。

**ケース**:

材質： 18Kホワイトゴールドとチタン（グレード5）

サイズ：49 mm x 51.5 mm x 19 mm

部品数：60部品

防水性能：30 m / 90フィート / 3 atm

**サファイアクリスタル**

両面反射防止コーティング加工サファイアクリスタルを全面的に使用（前面、ケースバック、トップ、底部）。メタライジング処理および線画のレーザーエングレービングが施された上部プレート。

**ストラップ＆バックル**

ブラックのハンドステッチアリゲーターストラップ。ホワイトゴールド製フォールディングバックル付。

**HM8 オンリーウォッチ担当の「フレンド」たち**

コンセプト：マキシミリアン・ブッサー（MB&F）

オロロジカルマシーン デザイン： エリック・ジルー（Through the Looking Glass）

オリジナルの線画：カサンドラ・ルジャンドル

技術・製造管理：セルジュ・クリクノフ（MB&F）

研究開発：ギヨーム・テヴナン、ルーベン・マルティネス（MB&F）

ムーブメント開発：ギヨーム・テヴナン（MB&F）

ベースムーブメント：ステファノ・マカルソ（ジラール・ペルゴ）

ケース：ファビアン・シャパット、リカルド・ペスカンテ（Les Artisans Boitiers）

象の彫刻フィギュア：オリヴィエ・クーン（Atelier-Création Kuhn）

ホイール、ピニオン、軸の回転調整：ドミニク・ギイ（DMP horlogerie）、イヴ・バンディ（Bandi）、ジャン＝フランソワ・モジョン（Chronode）

主ぜんまい：アラン・ぺレ（Elefil）

プレートとブリッジ：ロドリグ・ボーム（DAMATEC）、バンジャマン・シニュー（AMECAP）

ミステリー自動巻きローター：Cendres et Métaux、ピエール=アルベール・スタンマン（Positive Coating）

ムーブメント部品手仕上げ：ジャック＝アドリアン・ロシャ＆デニス･ガルシア（C.-L. Rochat）

ムーブメント組立：ディディエ・デュマ、ジョルジュ・ヴェイジー、アン・ギテ、エマニュエル・メートル、アンリ・ポルトブフ（MB&F）

社内機械加工： アラン・ルマルシャン＆ジャン=バティスト・プレト（MB&F）

品質管理：シリル・ファレ（MB&F）

アフターサービス： トマ・インベルティ（MB&F）

サファイアクリスタル：Sebal

サファイアクリスタルのメタル加工：ロラン・リネール（Econorm）

レーザーエングレービング：Wlaser

時間・分ディスク、光学プリズム：ジャン＝ミシェル・ペラトン、ジェラール・ゲルン（Bloesch）

リューズ：ジャン＝ピエール・カサール（Cheval Frères）

バックル：ドミニク・メニエ（G&F Châtelain）

ストラップ：オリヴィエ・ピュルノ（Camille Fournet）

ケース：オリヴィエ・ベルトン（ATS Atelier Luxe）

ロジスティックスおよびプロダクション：ダヴィド・ラミー＆イザベル・オルテガ（MB&F）

マーケティング＆広報：シャリス・ヤディガログルー、ヴィルジニー・メイラン、ジュリエット・デュル（MB&F）

M.A.D.ギャラリー：エルヴェ・エスティエンヌ（MB&F）

セールス：スニタ・ダーラムゼイ、リッツァ・ナルズ、フィリップ・オグル（MB&F）

グラフィックデザイン：サミュエル・パスキエ（MB&F）、アドリアン・シュルツ＆ジル・ボンダラ（Z+Z）

オロロジカル アート フォトグラフィー：マールテン・ファン・デル・エンデ

ポートレート撮影：レジス・ゴレ（Federal）

ウェブマスター：ステファン・バレ（Nord Magnétique）、ヴィクトル・ロドリゲス＆マチアス・ムンツ（NIMEO）

テキスト：スザンヌ・ウォン

**MB&F – コンセプトラボの誕生**

2015年、MB&Fは10周年を迎えます。史上初のオロジカル・コンセプトラボが経験した豊かな10年です。MB&Fを一躍有名にした、かの有名なオロロジカル・マシンとレガシー・マシンを構成する11個のキャリバーが象徴する、極限の創造性の10年と言えます。

15年間高級時計ブランドのマネージメントに徹したマキシミリアン・ブッサーは、2005年にハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を設立。MB&Fは、ブッサー氏が尊敬しコラボレーションを共に楽しむ才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプトの腕時計デザインと小規模の製作を行う、アートとマイクロエンジニアリングのラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカル・マシンHM1を発表。HM1の彫刻のような3次元ケースと美を追求して仕上げられたエンジン（ムーブメント）は、奇抜とも言えるその後の同社オロロジカル・マシンの基準となりました。HM2、HM3、HM4、HM5、HM6、HM7、HM8、そしてHMX。すべては時刻を告げるためだけのマシンではなく、自らが時を知るマシンなのです。

2011年にはMB&Fはラウンドケースのレガシー・マシン・コレクションを世に送り出しました。MB&Fの視点から言えばよりクラシカルなこのラインアップは、現代的な芸術作品に仕上げる上で、過去の偉大なオロロジカル革新者が生み出した複雑エンジンを新たに解釈し直し、19世紀の優れた時計製造技術を讃えています。LM1とLM2に続いて発表されたLM101は、完全自社開発したムーブメントを搭載している初のMB&Fマシンとなりました。2015年は完全一体型のパーペチュアルカレンダーが特徴の*レガシー・マシン・パーペチュアル*を発表。MB&Fは、現代的かつ非常に斬新なオロロジカル・マシンと、時計製造の歴史をインスピレーションの源とするレガシー・マシンを交互に発表しています。

MB&Fは、オロロジカル・マシンとレガシー・マシンの他にも、オルゴール製造を専門とする「リュージュ」とのコラボレーションによる宇宙時代を象徴したオルゴール（MusicMachine 1、2、3）や、「レペ1839」とのコラボレーションによる宇宙ステーションをイメージしたフォルムの独特な置時計（Starfleet Machine）、クモをモチーフにした時計（Arachnophobia）、ロケットをテーマにした置時計（Destination Moon）、さらに3つのロボットクロック（Melchior、Sherman、Balthazar）などを製作しています。2016年にはMB&Fと「カランダッシュ」が共同で、アストログラフ（Astrograph）と名付けられた機械式のロケット型万年筆を制作しました。

またMB&Fの軌跡における、その革新的な本質を証明する受賞機会もありました。すべてを網羅することはできませんが、名高い「ジュネーブ時計グランプリ」においては4つものグランプリを獲得しています。2016年には*レガシー・マシン・パーペチュアルが「*ベストカレンダー ウォッチ賞」を受賞。2012年にはレガシー・マシンNo.1が「パブリック賞（オロロジーファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」を受賞しました。また2010年には、MB&F のHM4サンダーボルトが「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。さらに2015年には、HM6スペースパイレートが、国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最高位の「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。